

No.448

特別展「地球の結晶 北川隆司鉱物コレクション」展示解説

石をさす言葉あれこれ「岩石」「鉱物」「宝石」「鉱石」

世の中で「石」と呼ばれているものの中には、「岩石」「鉱物」「宝石」「鉱石」などがあります。どこかで聞いたことのある言葉だと思いますが、きちんと違いを説明しようと思うと難しいですね。ここでは、石をさす言葉の違いをご紹介します。

私たちがいつも「石」とよんでいるものの多くは、「岩石」です。たとえば、川原や海岸に落ちている石、建物の壁や床に使われている石、庭石や墓石などがあります。これらの石を、じっくり見てみましょう。小さな白、緑、黒、透明の粒からなっているのがわかります。これら一つ一つが「鉱物」です。「鉱物」が集まって、「岩石」をつくっているのです。おにぎりを岩石に例えると、米粒やわかめ、ごま、シヤケなどが鉱物ということになります。おにぎりの具（鉱物）の種類とその組み合わせによって、いろいろなおにぎり（岩石）が作られます。

鉱物は、「どこをとっても同じ決まり（化学組成、結晶構造）をもっている天然の固体」です（一部例外もあります）。自然に産出する金や銀、ダイヤモンドなどの宝石も鉱物です。人や生物が作ったものは、鉱物には含まれません。

4700種類以上ある鉱物の中で、100種類ほどが宝石とされています。宝石と呼ばれるには、色・輝きが美しく、硬くて丈夫で、希少価値があることが必要です。ただし宝石の中でも、ダイヤモンドやエメラルド、ルビーは鉱物ですが、真珠やサンゴは生物が作ったものなので鉱物ではありません。

鉱石とは、岩石や鉱物の中で、人が生活していく上で役に立つものをいいます。たとえば、金とれる金鉱石、鉄とれる鉄鉱石、ダイヤモンドとれるダイヤモンド鉱石など、「この石は使える！もうかる！」といった人の考えによって決まります。したがって、昔は鉱石だったものでも、今の時代では役に立たず、鉱石と呼ばれなくなることもあります。例えば、亜炭（石炭の中で、炭化度が低いもの）は、以前は採掘して燃料にしていたのですが、現在は使われていないので、鉱石とは言いません。

博物館では、7月18日（土）から9月6日（日）まで、特別展「地球の結晶 北川隆司鉱物コレクション」を開催し、色や形の美しい鉱物・宝石を約300点展示します。自然が創りだした芸術品とも称される鉱物の世界をお楽しみください。（増渕佳子）



せきえい かくせんせき
石英、長石、角閃石などいろいろな鉱物が集まって
花こう岩ができています。



お米、ごま、わかめなどいろいろな具が集まって
おにぎりができています。

岩石とおにぎりはよく似ています。